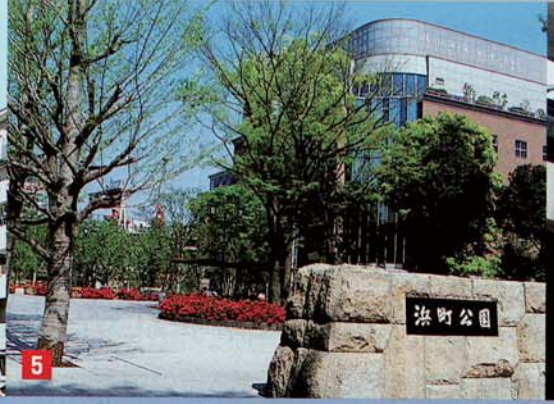
街散歩 日本橋 NIHONBASHI

歴史と共存しながら、進化する街——日本橋

江戸時代から、商業の街として発展してきた日本橋。“粋”や“いなせ”といった江戸文化も、ここで形成され、世の中に広められたという。そんな江戸の歴史に彩られた日本橋も、少しずつ変わろうとしている。今回は、歴史と共存する街・日本橋を歩いてみよう。



最初に足を運んだのは、日本橋の新しいランドマーク「COREDO日本橋」。今年3月にオープンしたばかりの商業施設だ。ここ最近、メディアで取り上げられていることもあり、多くの人で賑わっているが、日本橋という土地柄、若者が少ないため、落ち着いて歩けるのがありがたい。一通り、中を歩いた後は、裏のアネックステラスでひと休み。ビルに囲まれてはいるものの、植栽の緑が心地いい。

今度は、架橋401年目を迎えた「日本橋」へ。今は、首都高速道路が屋根のように覆いかぶさっているが、昔のような青空を取り戻そうという地元の動きもあるという。日本橋川沿いに歩いていくと、左手に小さな鳥居が見えてくる。証券業界の守り神として信仰を集める「兜神社」だ。高速道路と建物に挟まれ、名前からは想像できないほど、小ぶりな社殿がひっそりと建っている。

そこから、証券取引所の前を通り、鎧橋を渡ると日本橋小網町に入る。ここからは、少し「日本橋七福神」を巡ってみる。まずは、福禄寿・辨財天が祀られている「小網神社」へ。木造の社殿に施されている昇り龍などは、とても見ごたえがある。次に、細い路地を抜け、布袋尊の祀られている「茶ノ木神社」へ。向かいの商店のご主人によると、この辺りは、再開発計画によって大きく様変わりするという。「この神社、変わっちゃうんだよ。しっかり撮っといてよ」少し寂しそうな言葉が印象的だった。

3番目の「水天宮」は、今までとはガラッと異なり、非常に多くの人で賑わっている。特に、安産祈願の妊婦が多い。恐らく、七福神の中で一番の賑わいだろう。そこから、新大橋通りを渡って少し歩いたところに、4番目の「松嶋神社」がある。驚いたことに、ビルの1・2階が神社になっている。これも、時代の流れなのだろうか——。ふと、再開発で変わるという「茶ノ木神社」を思い出した。

七福神めぐりはこのくらいにして、甘酒横丁へ入る。下町情緒あふれる道筋には、老舗と呼ばれる粋な店が軒を連ね、ぶらぶら歩くだけでも楽しい。そのまま「浜町公園」を抜け、隅田川沿いの親水遊歩道へ。対岸では、大型マンションの工事が行われている。時代とともに、街は変わりゆくものだ。変わらなければ、街が廃れていくことだってある。古きよきものを残しつつ、いかに街を活かしていくか——やはり永遠の課題だと思う。

参考文献：『江戸・東京 歴史の散歩道1』（街と暮らし社）、『東京都の歴史散歩 上』（山川出版社）

1 COREDO日本橋 テラス
2 日本橋一丁目ビルディング

東急百貨店跡地に、今年竣工した「日本橋一丁目ビルディング」。"明日に向かって出帆する船の帆"をイメージしたという外観デザインが、ひときわ目を引く。低層部の商業施設「COREDO日本橋」は、オンリーワンショップや新業態の店舗など、話題性のある個性的な店舗が軒を連ねている。

3 水天宮 表通り
4 水天宮

安産の神として知られる水天宮は、江戸時代には、久留米藩主有馬家の上屋敷（現在の港区赤羽橋）にあり、本来は水難除けの神。明治新政府により藩邸が接収されたため、この地に移された。当時の社殿は、関東大震災により焼失。1967（昭和42）年に、現在の権現造の社殿が建てられた。日本橋七福神・辨財天を祀っている。

5 浜町公園

かつて熊本藩主細川家の中屋敷があった所で、1929（昭和4）年に浜町公園として開園した。

6 茶ノ木神社

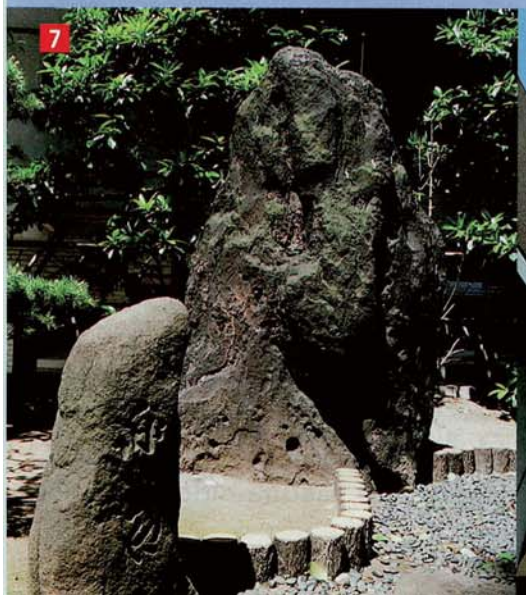
火伏の神といわれる茶ノ木神社。周囲に巡らされた茶の木が見事で、この名がついたと伝えられている。

7 兜神社 兜岩

源義家の兜岩の伝説をもとに、1878（明治11）年、東京株式取引所開設に当たって創建された神社。

8 日本国道路元標

7本の国道の基点となっている日本橋。橋上の道路中央部に「日本国道路元標」の銅板が埋設されている。

9 松嶋神社

創建は、鎌倉時代までさかのぼる。明暦の大火（1657年）以前、神社の周囲は歓楽街であり、人形細工の職人、歌舞伎役者など、芸能関係や庶民の参拝が盛んであった。